

令和6年松本市議会12月定例会
市長提案説明

[6.12.2(月) 10:00]

本日、令和6年松本市議会12月定例会を招集したところ、議員の皆様にご出席をいただき、厚く御礼を申し上げます。

議案の提案理由の説明に先立ちまして、所信を述べさせていただきます。

先月12日から3日間の日程で、姉妹都市提携35周年を迎えたネパールの首都、カトマンズ市を訪問いたしました。

バレンドラ・シャー市長との会談のほか、アルピコホールディングスと現地の大学による観光分野の人材交流に向けた協定締結式への参加や、日本に介護分野の人材を送り出している職業養成校の視察などを行いました。

シャー市長は、現在34歳。社会派のラッパーという経歴を持ち、若い世代の支持を集める異色の政治リーダーです。エンジニア出身でもあり、工学の知識を生かして、カトマンズ市の環境衛生・教育・交通の改革に力を注いでいます。

会談では、次の世代のために積極的に交流を進めることで意見が一致し、環境衛生に関する視察や、シャー市長が若い世代と対話する機会を持つことを目的に松本にお迎えしたいと要請したところ、快諾していただきました。来年春の訪問に向けて事務レベルの調整を進めているところです。

カトマンズは、平均年齢が25歳前後の若々しい都市で、街中は行き交う人々のエネルギーで満ち溢れていました。共に標高の高い山々に囲まれた「岳都」として、人や物の交流を一層深め、双方に恩恵がある関係を目指してまいります。

先月10日に開催された「松本マラソン2024」は、快晴微風、絶好のコンディションのもと、総勢6,497人のランナーが三ガク都・松本を駆け抜けました。

今大会は、課題とされてきたコースについて、3年ぶりに日本陸連の公認を取得するとともに、「激坂」を解消するなどの改良を行いました。ほかにも、中盤の登り坂に設けた「峠の茶屋」のエイドの充実や、同様のエイドをフィニッシュ会場で楽しめる「おもてなし茶屋」の新設、女性専用トイレの増設や、更衣室で化粧直しができるパウダーコーナーの設置など、昨年から更にシンカした大会を目指しまし

た。

こうした取組みが実を結び、国内最大級のランニングポータルサイト・ランネットでは過去最高の評価を受けることができました。

沿道で応援いただいた方、ボランティアで携わっていただいた方、何より参加していただいたランナーを始め、全ての皆様に御礼を申し上げます。

来年も一段とシンカした大会を目指し、準備を進めてまいります。

人口定常化を目指す松本市は、子育てサービスや教育環境の面で東京圏との格差をなくすことを目指し、子どもを育てる政策の充実に取り組んでいます。

このうち、窓口負担500円を除いて医療費を無償化する「子ども福祉医療費給付制度」について、おとしし令和4年度に対象年齢を「15歳まで」から「18歳まで」に拡大しましたが、来年1月からは窓口負担をゼロにして、18歳以下の医療費を完全無償化します。

既に関連経費は6月の補正予算で認めていただきましたので、医療機関と協力して広く周知を図るとともに、今月下旬には対象となる18歳までの子どもおよそ3万6千人に対して、受給者証を送付する予定です。

引き続き、結婚や子育ての希望が叶えられるまちの実現に向けて、子育て政策のシンカに取り組んでまいります。

次に、中心市街地再設計の検討状況について申し上げます。

中心市街地の再設計に当たりましては、今年7月に設置した中心市街地再設計検討会議をいわゆる親会議として位置付ける中で、都市デザインや各業界の団体と議論を重ねるとともに、公募による市民や学生を対象としたワークショップを開催するなど、幅広い分野や年代の皆さんから意見をお聞きしてきました。

松本市LINE公式アカウントを通じて寄せられた意見は500件を超え、その半数は10代から30代の次代を担う若者たちからでした。改めて中心市街地の現状と未来に対する関心の高さ、期待の表れを感じます。

先週29日には、第3回の検討会議が開催され、一連の議論や意見を踏まえ、中核エリアの将来に向けた骨太な指針、新たな見取り図の原案について協議をいただきました。大きな方向性としては、中核エリアを歩いて楽しめる空間にする、あらゆる人にとって居心地が良く出かけたくなる場所にする、安心自由に移動できるモビリティネットワークを再編する、歴史や景観などの松本らしさを守りつつ、多くの

市民が望む多様で高次な都市施設を包摂する市街地を創造する、この4つが柱となっています。特に、歩いて楽しめるウォークブルな町という点に関しては、検討会議を始め、各種団体、市民共に皆が望む方向性であると捉えていまして、行政としての本気度が問われるものと考えています。

今月15日には市民フォーラムを開催し、これまでの検討結果の詳細が報告される予定です。ぜひ大勢の皆さんにご参加いただき、市民が望む中心市街地のあるべき姿について、白熱した議論が展開されることを期待しています。

最後に、J2復帰をかけたプレーオフ決勝に臨む、松本山雅FCについて触れさせていただきます。

J3リーグで3シーズン目を迎えた松本山雅は、霜田正浩監督しもだまさひろのもと、シーズン後半に入ってもなかなかチームの歯車が噛み合わず、上位浮上のきっかけをつかめずにいましたが、クラブの原点であるハードワークとひたむきさを取り戻したことで、最終盤で5連勝を果たし、4位で昇格プレーオフ進出をつかみ取りました。

昨日行われた準決勝でも、福島の猛攻を凌いで引き分けに持ち込み、「ツヨクナル」のスローガンのもと、今週土曜日に富山との決戦に臨みます。

2019シーズンにJ1から降格して5年。長い低迷期を脱して再び上昇気流に乗れるかどうか、文字どおり正念場の試合となります。大勢のサポーターがホームゲームと変わらぬ声援で選手たちを後押しし、松本のまちに吉報をもたらすことを期待しております。

それでは、ただいま上程された議案についてご説明申し上げます。

提案した議案は、条例25件、予算10件、契約1件、道路2件、その他22件の、合計60件であります。

始めに、条例については、刑法の改正に伴って関係条例を一括改正する条例の制定1件のほか、指定管理者が管理する施設の利用料金を繁忙期・閑散期に応じて柔軟に設定できるよう、その上限額を見直すもの、奨学金の貸与要件の見直しに伴うもの、国の人事院勧告に準じて給料表を改定するものなど、条例の改正24件を提出しています。

次に、補正予算は、令和6年度一般会計補正予算2件、特別会計補正予算7件、並びに公営企業会計補正予算1件を提出しています。

12月補正予算「その1」として提出している一般会計補正予算、

6件の特別会計補正予算、並びに病院事業会計補正予算については、令和6年人事院勧告に準じた職員等の給与改定に係る経費を計上しています。

人件費の増額分として、一般会計では、8億2,468万円、特別会計では、2,767万円、病院事業会計では1億3,185万円を追加するとともに、特別会計においては、令和5年度決算が確定したことに伴う繰越金の精算を併せて計上しています。

これらの補正予算につきましては、今日先行してご審議をお願いするものです。

次に、12月補正予算「その2」として提出している一般会計補正予算、並びに特別会計補正予算については、令和7年度から新たに基本協定を締結する指定管理施設などについて、必要な債務負担行為を設定しています。

以上により、一般会計の補正後の予算規模は、前年度同期比3.5パーセント増の1,105億2,411万円、全会計の補正後の予算規模は1,915億4,922万円、前年度同期比では1.9パーセントの増となりました。

契約については、上高地の^{しんむらぼし}新村橋を車道橋とするための上部工工事の請負契約の締結、1件を提出しています。

その他の議案は、市道の認定1件、変更1件のほか、乗鞍観光センターなど公の施設に係る指定管理者の指定に関する議案21件と、乗鞍高原湯けむり館の指定管理期間を変更する議案1件を提出しています。

議案以外のものとしては、市長の専決処分事項の指定にかかわる報告2件と、利用客の増加に伴って上高地観光施設事業会計に地方公営企業法の規定による弾力条項を適用したことの報告1件となっています。

なお、この定例会中には、人事案件として、「教育委員会委員の任命」、「監査委員の選任」、「固定資産評価審査委員会委員の選任」を、それぞれ追加提案する予定です。

以上、本日提案した議案等について説明申し上げました。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

(以上)